

乳腺外科トピックス 7月号

2019年7月17日 乳腺外科 三輪教子

1. 日本乳癌検診学会による乳癌検診の全国集計に協力しました。

昨年度も協力しました。残念なことに兵庫県では当院を入れて8施設のみです。協力すると、要精検率・がん発見率などを全国平均とともにそれぞれの施設の結果を教えてください。これは、各施設での乳がん検診をより一層質の高いものにしようという励みになります。当院は、患者さんが要精検率（要精査となったかたのうち実際に精査を受けた割合）が高く、がん発見率もずっと向上してきました。全国平均は約0.2%とほぼ一定ですが、当院のがん発見率は、0.2%→0.4%→0.8%→1%と上昇してきました。マンモグラフィ撮影技師さん、乳腺エコー担当の技師さん、そして検診の予約から当日の案内等々を仕切ってくださる健診科のみなさんのおかげです。

2. JMS 予約始まっています！

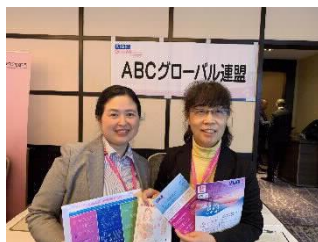
例年、町ぐるみ検診の乳がん検診で、当院の予約が早くにいっぱいになると市の健康課の方からお聞きしていました。町ぐるみ検診の枠を確保すべく、また、日頃平日にはなかなか乳がん検診に来られない方々に日曜日の検診をと考えて、今年から、当院は Japan Mammography Sunday=JMSに参加することになりました。ご予約を受け付け中です。おかげさまで大変好評です。お問い合わせ、ご予約は当院健診課にお願いいたします。

3. ABC グローバル憲章の冊子が届きました！

早期乳がんの治療は各段に進歩しましたが、まだまだ進行再発乳がん（ABC）の予後は厳しい状況です。一因は、日本では乳がん検診受診率が低く、受診時に進行していることが少なくないこと、また、がんへの先入観や偏見などから、しこりに気付いていても受診が遅れることがあります。ABCの治療とケアのための国際的なコンセンサス会議が2011年からリスボンで隔年に開催されています。この会議の最終日の治療/ケアの方針を話し合いの場に、医師のみでなく、看護師、患者が当初から加わっています。ABC患者さんの全人的な治療とケアを患者さんを中心に考え多職種で支えるというポリシーに則った会議です。その会議から、国際患者会というべき、ABCグローバル連盟が結成されました。まずはABC患者さんへの理解を深めていくことを目的とした全世界的な行動を始めています。三輪は、連盟のサポーターとして活動しています。連盟の拠り所となるABCグローバル憲章が制定され、最近日本語版（拙訳）が公式にリリースされました

[\(https://www.abcgloballiance.org/abc-global-charter/\)](https://www.abcgloballiance.org/abc-global-charter/)。この日本語版ブックレットが6月にヨーロッパの本部から当院に届きました。7月の日本乳癌学会学術総会でABCグローバル連盟のブースを出展させていただき、その場で配布しました。その際、簡単な

アンケートにもご協力いただきました。まだまだABCへの理解も関心も低いということが実感でき、今後折に触れて、ABCのことをお話ししていきたいと思っています。



4. 今年のにしわき乳がん市民公開講座の講師が決まりました！

昨年のにしわき乳がん市民公開講座には、日本対がん協会会長の垣添忠生先生にお越しいただきました。その際、先生は、「がんと診断されたときに、信頼できる情報にアクセスして、落ち着いて方針を考えることが大事」とおっしゃられていました。例えば乳がんについての情報は、有名人の報道を機に一気に増えました、が、残念なことです、信頼できる情報ばかりではありません。そこで、今年は、がんと診断されたときに、「どうやったら信頼できる情報が得られるか、図書館を利用して」、をテーマにしました。会場はみらいえで、西脇市立図書館が入っています。講師の先生は、鳥取市立図書館司書の佐伯真由佳先生です。お話を伺うだけでなく、当日みらいえを使って、実際に図書館から情報を得る方法をご一緒に体験できたらと考えています。

2019年11月30日（土） 13時～16時 みらいえ （詳細は広報等でお知らせします）